

七高SSH通信

～七尾高校理数科だより～

H28・1・25
石川県立七尾高等学校
SSH推進室
平成27年度 第12号

「ディベート演習」 人間環境

後期から1年生理数科では「人間環境」の授業が行われています。学校設定科目「人間環境」は、豊かな人間生活を構築するため生活に必要な知識・技術を習得し、生命観・倫理観を身に付けることを目的として実施されている学校設定科目です。「家庭」と「保健体育」の分野を融合し、人間と環境、健康・福祉の関わりを総合的に学ぶだけでなく、この科目では、ディベートという方法を用いて学習することが特徴です。

研究発表等では質疑応答のスキルは欠かせないものです。この授業ではディベートを行うことにより、自分の考えを根拠に基づき論理的に主張すること、人の意見を聞き自分の意見との違いを認め、相手の考えや思いを理解すること、そして、一歩踏み込んでその意見の違いをどう解決していくかなどを身に付けることをねらいとしています。



全国教室ディベート連盟
北陸支部幹事 伊井先生の講義



今回与えられた論題は『日本は人工妊娠中絶を禁止すべきである』です。班ごとに立論を作成し、資料の収集にあたりました。



ディベートとは？ 与えられたテーマの是非について、話し手（ディベーター）が肯定側・否定側に分かれ、決められた持ち時間・順番の中で、第三者（ジャッジ）を説得する形で議論を行います。スポーツやゲーム等と同様にきちんとしたルールがあり、勝ち負けがあります。勝ち負けの基準は、ジャッジをどちらがより「説得」できたかにあり、相手やジャッジを論破・圧倒・翻弄することではありません。

結果

決勝に進んだのは春成・平田・湊・村中チーム、堅田・笹谷・宝泉・守友チームの2チームで1年生理数科全員が試合を観戦し、最後には観戦者全員の投票により勝ち負けを決めました。結果は肯定側（春成チーム）の勝利となりましたが、どちらの班も立論・反駁ともうまく組み立て、とても見応えのある試合でした。大勢の前でのディベート対戦ということで生徒達は大変緊張していたようですが、普段と変わることなく冷静に論じることができていました。3月には英語のディベートも予定しています。



村中・湊・平田・春成チーム

守友・堅田・笹谷・宝泉チーム

中橋・石田・渡辺

保育実習

言葉をうまく話せない幼児と交流するには、子供の表情を読み取ったり、察したりする能力が問われます。幼い子供との交流を通して、他者との関係作りや思いやりの心を身につけることを目的に保育実習が行われました。予想のつかない行動に出る幼児と関わるのは苦戦することも多いですが、生徒たちは子供達と遊んだり、食事をさせたりすることで、子供と関わる楽しさ、小さな命を預かることの大切さを学んでいました。



講演会

「人間環境」のディベートのテーマに関係する講演会が1年生を対象に行われました。思春期の性、妊娠・出産について、命の尊厳、生きることや死について学びました。

11月27日
公立能登総合病院助産師の平田先生
「かけがえのない命」



1月21日
佐原病院・さはらファミリークリニック
院長の佐原先生
「かけがえのない生命—死とは何か?—」